



長期的・全体的視野に立ったまちづくりとは
西田 学 議員

問 本市のごみ焼却施設は老朽化している。今後の対策及び計画は。

答 現施設稼働終了後のごみ焼却方法は、現在検討中で、方向性を出すまでには至っていません。方針決定後も移行までは相当の年数が必要であり、現施設を適正に稼働させるため、必要最小限の整備を計画的に行っていく予定です。

問 大川の駅整備とアクセス道路整備に必要な用地取得のための地元説明会等は進んでいるか。

答 大川の駅とそのアクセス道路は一体的に事業を進める必要があるため、昨年12月に大川の駅整備関連予定地の関係者に対し、地形測量の説明会を開催しました。今後、必要な段階で用地取得に向けた地元説明会を開催予定です。

問 アクセス道路は県道か市道か。
答 県にお願いしています。
要望 アクセス道路関連で、本市

東部地域活性化のために県道水田大川線のバイパス道路として、いちよう通りを西鉄蒲池駅方面へ延伸する計画の早期実現を希望する。

問 大川の駅全体計画に、排水先の状況により調整池の整備の検討が必要であると書かれているが。

答 造成基本計画の策定を予定している中で、その中で調整池等の必要性も含めて排水計画等を策定したいと思っています。

意見 大川の駅整備予定の大野島北部の土地には農業振興地域に指定された自然豊かな田んぼが多い。数年で継続不能となれば、元の田んぼには戻らない。今あるものを生かしたほうがSDGsの観点から面白い。小学校の再編も避けて通れず、市の庁舎も50年以上経過し、いずれ建て替えなければならぬ。財政的にも大川市は遠回りをしている余裕はないはず。



芸術文化の振興と発展へ向けた取組について
県の施策に対する大川市の取組について
宮崎 貴仁 議員

問 市所蔵の美術作品を活用した学校・各施設での巡回展や、所蔵作品をデータ化することで、ウェブ上の美術展等の開催も可能ではないかと思うが、本市の考えは。

答 子どもたちにもしっかりと郷土の作品を知っていただきたいし、VR等を活用した美術館もあることから、将来的には、文化財の活用としてもしっかりと検討していく必要があると考えています。

問 本市には文化芸術界で名を馳せられた先達や現役で活躍中の方々も多く、そのような逸材や美術財産を生かした芸術文化の振興、発展に向けた市長の思いは。

答 芸術文化は我々を支える大事なものであり、持っている財産を生かして、しっかりと芸術文化の観点で取組を進めたいと思います。
要望 市民や次世代を担う子どもたちの文化力向上のため、多くの

アーティストの作品や公演を通して、芸術文化にじかに触れられる多くの機会の創出をお願いしたい。

問 宣言県下の一市として、本市のワンヘルスに対する取組は。

答 現在、何ができるか検討中であり、今後は県の行動計画に沿って連携、協力するとともに、周知と理解促進を図りたいと思います。

問 本市にはワンヘルス理念に基づく要素が多く存在する中、先の大川を見据え、本市もいち早く宣言すべきと思うが、市長の見解は。

答 大川らしさを考え、今後具体的に検討していきたいと思えます。
問 パートナリシップ宣誓制度の導入について、本市の考えは。
答 4月から始まる制度にのっとり、前向きに検討していきます。
要望 人権を尊重し合い、差別や偏見なく生活を送れるよういち早くこの制度の導入をお願いしたい。



大川市の内排水の現状と対策について
公共施設の運営や利用について
古賀 寿典 議員

問 三又校区の災害状況と対策は。

答 2年7月と3年8月の豪雨は総雨量が600ミリから700ミリと非常に大量の雨が長時間降りたため、市北部において内水が排除できず、三又地区が大きな被害を受けたと考えています。対策として、新橋川は、河川管理者の福岡県が継続的な浚渫を実施されており、2年度は諸富地区の国営水路及び大溝線から旧中古賀水門左岸の約250メートル、3年度は中古賀地区の大溝線から上流左岸の約30メートルを浚渫されました。今後も継続的に浚渫されるよう市としても取り組んでいきたいと思えます。また、国営水路が10路線あり、近隣市町で構成している筑後川下流域農業開発事業促進協議会で、大雨時の排水については、下流の水位状況次第で上流のゲートを開けて下流に流さないなどの

ルールづくりやリアルタイムでの情報共有のシステム構築を行い、近隣市町との連携を図り、先行排水の流域化に向けて取り組んでいます。浸水対策は川端通地区のクリークの浚渫を行い、雨水の貯留量及び流下能力を確保させ、先行排水の効果を高めていきます。浸水リスクの高い箇所は事前に土のうを積み、防除と必要に応じて強制排水を行うことを考えています。

問 大川中央公園メインアプローチをどのように活用していくのか。
答 子育てをしやすい環境づくり、健康増進等の現代的な社会的ニーズを踏まえた中心市街地の貴重な公共空間として、公園のリニューアルを行っています。日常の利用方法は、散歩やダンス、自転車等の練習など、車の通行がなく、安全に利用できる多目的な舗装空間という位置づけを考えています。



大川市政への提言について
永島 守 議員

問 大川の駅事業について一部誤情報が語られている。この際、事業規模内容・事業手法等を伺う。

答 道の駅利用者数を三通りの方法で計算し、年間百万人と想定しています。概算事業費について調査設計費は2億7千900万円、建築・土木工事費は46億8千700万円の合計49億6千600万円と算出しています。現在、事業認定申請に必要な測量図作成のために、地形測量を現場で実施し、農振除外、農地転用を含め、関係機関と協議を進めています。4年度に土地収用法の認定を受け、速やかに用地取得の手続を進めます。手法は従来方式だけでなく、建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う官民連携手法のPFI方式等も積極的に検討しています。

問 道の駅への県道延伸と今後の

実行計画についての詳細を伺う。
答 計画ルートの決定、詳細設計、用地測量、事業用地取得を行い、大川の駅整備と一体となって、必要に応じ説明会を開き、地域の合意形成を図り、進めていきます。

問 本市が抱える今後の重要政策課題について伺う。
答 最大の課題は人口減少、少子高齢化対策と認識しています。重点施策の産業振興は企業誘致が重要と考え、中長期的には大川の駅構想実現が福岡県南や有明海沿岸地域の一体的な経済的浮揚政策として現在力強く推進しています。

問 市長の大川の駅事業について現在の心境を伺う。
答 単独財政では当然できません。現在県議会で審議中ではありますが、県議から心強い言葉をいただいております。今後、国県の力強い支援を